

研究室だより

(2018年4月1日～2019年3月31日)

- 川端康雄教授は、4月、大学院文学研究科委員長に就任。
- 佐藤和哉教授は、4月、大学院文学研究科英文学専攻主任に就任。
- 佐藤達郎准教授は、4月、教授に資格変更。
- 佐藤達郎教授は、4月、文学部英文学科長に就任。
- 坂田薫子教授は、4月、中央大学人文科学研究所の派遣研究員に就任。
- 佐藤和哉教授は、4月、日本英文学会関東支部の『関東英文学研究』副編集委員長に就任。
- 藤井洋子教授は、4月、日本言語学会の編集委員に就任。
- 馬場聡准教授は、4月1日から2018年3月31日まで、オレゴン大学グローバル・スタディーズ・インスティテュートにて派遣研究員として研修。
- ピーター・ロビンソン准教授は、4月、“Preservation of Newspapers”を *BKAS Essay Shorts* に執筆。
- ピーター・ロビンソン准教授は、4月5日、“Literary Gifts for the Season: Book Advertising in *The Times*’ Christmas Books Supplement, 1909–1919”を Book Advertising Studies (BKAS) Workshop II (於 早稲田大学) にて口頭発表。
- アン・スレイター教授は、5月、“Traveling in Bardo”を *AGNI online* [<http://agnionline.bu.edu/essay/traveling-in-bardo>] に執筆。
- 川端康雄教授は、5月、「詩人モリス出世作の全訳——ウィリアム・モリス著、森松健介訳『地上の楽園 春から夏へ』『地上の楽園 秋から冬へ』」を『中央評論』第303号に執筆。
- 藤永康政准教授は、5月、「黒人ラディカリズムの「68年」とブラックパワー運動」を『思想』第1129号に執筆。
- 藤永康政准教授は、5月、「キングのヴィジョン、マルコム の呪い、ニガ、ハイパワー——ケンドリック・ラマーとブラック・ポリティックス」を『ユリイカ』第726号に執筆。
- 川端康雄教授は、5月21日、「文化と小芸術」を日本英文学会第90回大会(於 東京女子大学)にて特別シンポジウム「文化」を考える——日本英文学会における文化研究の可能性」の講師として口頭発表。
- 早野薫准教授は、5月15日から21日まで、Self-Other Relations in Interaction Symposium に出席のため、アメリカ合衆国へ出張。5月17日、“Becoming a good parent: Epistemics in daycare teacher-parent interaction”を Self-Other Relations in Interaction Symposium (於 University of California, Los Angeles) にて招待講演。
- ダグラス・フォースター准教授は、5月19日、“Fostering Aspiring Students in the EFL Classroom”を、Joseph Poulshock と共同で JALT (於 東洋学園大学) にて口頭発表。
- 馬場聡准教授は、5月24日から26日まで、American Literature Association

- 29th Annual Conference に出席のためアメリカ合衆国サンフランシスコへ出張。
- 佐藤和哉教授は、6月、日本英文学会の事務局長に就任。
 - 坂田薫子教授は、6月、書評 (Cecil E. Bohanon and Michelle Albert Vachris, *Pride and Profit: The Intersection of Jane Austen and Adam Smith* (Lexington Books, 2015)、廣野由美子著『深読みジェイン・オースティン——恋愛心理を解剖する』(NHK ブックス 2017年)) を『ジェイン・オースティン研究』第12号に執筆。
 - 高梨博子准教授は、6月25日から7月1日まで、The 22nd Sociolinguistics Symposium (於 The University of Auckland, New Zealand) に出席、研究発表のため、ニュージーランドへ海外出張。6月27日、“Dialogic Engagement in Tourism: The Constitution of Hybrid Identities”を口頭発表。
 - 川端康雄教授は、6月30日、「ウィリアム・モリスと英国デザインの源流」を、朝日カルチャーセンター(於 湘南教室)にて講演。
 - 坂田薫子教授は、7月、日本ジェイン・オースティン協会の学会誌『ジェイン・オースティン研究』の副編集委員長に就任。
 - 早野薫准教授は、7月、“A-prefaced responses to inquiry”を *Between turn and sequence: Turn-initial particles across languages* (John Benjamins) に執筆。
 - 早野薫准教授は、7月11日から16日まで、第5回 国際会話分析学会(於 Loughborough University) に出席、研究発表のため、連合王国へ出張。7月13日、“Distress in the past and present: The use of past tense as a resource to resist troubles”を口頭発表。7月13日、“*Nn*-prefaced answers to polar questions in Japanese”を口頭発表。
 - アン・スレイター教授は、8月13日、“Writing and *The Tibetan Book of the Dead*”を *AGNI literary magazine blog* [<https://agnimag.wordpress.com/tag/ann-tashi-slater/>] に執筆。
 - アン・スレイター教授は、8月21日、“Teatime in Darjeeling”を *Tin House online* [<https://tinhouse.com/teatime-in-darjeeling/>] に執筆。
 - 三神和子教授は、8月21日から31日まで、調査のため、アイルランド、連合王国へ海外出張。
 - ピーター・ロビンソン准教授は、8月13日から25日まで、資料収集のため連合王国へ海外出張。
 - 藤永康政准教授は、9月、日本アメリカ史学会の副代表に就任。
 - 早野薫准教授は、9月、「認識的テリトリー：知識・経験の区分と会話の組織」を『会話分析の広がり』(ひつじ書房)に執筆。
 - 高梨博子准教授は、9月5日から15日まで、The 2nd International Conference on Sociolinguistics (於 Eötvös Loránd University, Budapest, Hungary) に出席、研究発表、司会のため、および、科研基盤研究(C)「訪日外国人旅行者との対話モデルの構築——対話原理に基づく意味共有と価値創造の体系化」に係る調査のため、ハンガリー、オーストリア、イタリアへ海外出張。9月8日、“Stance as Dialogic Practice of Chronotope in Tourism”を口頭発表、Strand “Discourse”

- にて司会を務める。
- 川端康雄教授は、9月15日、川村英文学会 第25回大会（於 川村学園女子大学目白キャンパス）にて「生活のレッサー・アーツ——ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動」を招待講演。
 - 松森晶子教授は、9月17日、「沖縄本島北部の三型アクセント体系の諸相——通時的視点から——」を国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」共同研究会（於 琉球大学）にて口頭発表。
 - 坂田薫子教授は、9月22日、「モニカ・マドンから読み解く『余った女たち』」を第133回十九世紀英文学研究会（於 同志社女子大学）にて口頭発表。
 - 藤永康政准教授は、9月22日から23日、日本アメリカ史学会第15回年次大会（於 日本女子大学目白キャンパス）にて司会を務める。
 - 増田和香子助教は、9月1日から7日まで、資料収集のため、アメリカ合衆国ニューヨークおよびボストンへ海外出張。
 - アン・スレイター教授は、10月3日、“Traveling in Bardo: *The Tibetan Book of the Dead*”を The Rubin Museum of Art にて口頭発表。
 - アン・スレイター教授は、10月6日、“Personal Identity in an Intersectional World”を *She Roars: Celebrating Women at Princeton University conference* にて口頭発表。
 - 高梨博子准教授は、10月7日、「日米アジアの観光都市におけるインバウンド旅行者との対話的交流による地域アイデンティティの形成に関する研究」を日本交通学会第77回研究報告会（於 青山学院大学）にて口頭発表。
 - 馬場聡准教授は、10月24日から27日まで、Western Literature Association 53rd Annual Conference に出席のためアメリカ合衆国セントルイスに海外出張。
 - 高梨博子准教授は、10月27日、「インバウンド旅行者との authentic な対話的交流に向けて」を日本国際観光学会第22回全国大会（於 江戸川大学）にて口頭発表。
 - 早野薫准教授は、10月28日、エスノメソドロジー・会話分析 2018 年秋の研究例会（於 日本女子大学目白キャンパス）にて司会を務める。
 - ピーター・ロビンソン准教授は、10月、デジタルアーカイブ The Times Supplements (Leiden, Brill) を Peter O'Connor 氏と共同で開設。
 - 坂田薫子教授は、11月、「モニカ・マドンという生き方——『余った女たち』における働く女性たちの表象」を『ヴィクトリア朝文化研究』第16号（ヴィクトリア朝文化研究学会）に執筆。
 - 三神和子教授は、11月、「サフラジェットと〈女らしさ〉」を『総合研究所紀要』第21号に執筆。
 - 大場昌子教授は、11月2日、東京女子大学100周年記念シンポジウム（最終回）「女子大学の新たな使命」（於 東京女子大学）にて基調報告およびパネルディスカッションのパネリストを務める。
 - 大場昌子教授は、11月12日、私学研修福祉会主催、第41回私立大学の教育・研究充実に関する研究会・大学の部（於 アルカディア市ヶ谷）にて、研究

- 課題「新しい大学施設のあり方と教育の活性化」の基調講演を務める。
- 大場昌子教授は、11月17日、日本アメリカ文学会第57回全国大会（於 実践女子大学）にて研究発表の司会を務める。
 - 川端康雄教授は、11月17日、日本ヴィクトリア朝文化研究学会第18回全国大会（於 日本女子大学目白キャンパス）にて特別講演「ブーター氏の悲哀——ヴィクトリア朝におけるロウワー・ミドル・クラスの表象」（講師：新井潤美）の司会を務める。
 - 坂田薫子教授は、11月17日、ヴィクトリア朝文化研究学会第18回全国大会（於 日本女子大学目白キャンパス）にて司会を務める。
 - ピーター・ロビンソン准教授は、11月19日、“Hunting & Travel Notes from the East: Miscellaneous Writing of Mason Sears, 1923–1927”を Sophia DRONES セミナーシリーズ（於 上智大学）にて招聘講演。
 - 土屋智子講師は、11月1日、“Japanese War Brides Immigrating to Australia”を International Metropolis Conference（於 International Convention Centre Sydney）にて口頭発表。
 - 馬場聡准教授は、11月16日から19日まで、資料収集のためアメリカ合衆国 Japanese American National Museum に海外出張。
 - ダグラス・フォースター准教授は、11月25日、“Teaching Media Literacy in the EFL Classroom”を JALT 第44回年次国際大会教材展示会（於 静岡コンベンションアーツセンター）にて口頭発表。
 - 町沙恵子助教は、11月25日から12月2日まで、連合王国、ヨーク大学（教育学部）へ客員研究員として海外出張。11月29日、“How to Participate in Japanese Conversations: What You Can Learn from Discourse Analysis”を York Asia Research Network (YARN) Seminar Series Autumn Term 2018 にて口頭発表。
 - 高梨博子准教授は、12月8日、日本英語学会の大会運営委員に就任。
 - 藤井洋子教授は、12月、「「個を基体とする言語行動」と「場を基体とする言語行動」——英語・中国語・日本語・韓国語・タイ語の比較より——」を『社会言語科学』第21巻第1号に執筆。
 - 高梨博子准教授は、12月、“Stance”を *Handbook of Pragmatics* (John Benjamins) に執筆。
 - 土屋智子講師は、12月、“Mixed Blood” Children and their Families in the United States: The Idea of a Racially and Culturally Pluralist Nation at the Beginning of the Cold War”を *Nanzan Review of American Studies* 第40号に執筆。
 - 大学院英文学専攻課程協議会第52回研究発表会が、12月1日、日本女子大学にて開催された。三神和子教授は、「Katharine Mansfield のニュージーランドに寄せる思い」を講演。本学大学院より、博士課程前期1年宮崎あかり、2年飯岡真由子が発表。アドバイザーとして坂田薫子教授、内山加奈枝准教授、早野薫准教授が出席。花角聡美助教、小林かおり助手が司会を務める。
 - 高梨博子准教授は、12月6日、日本女子大学総合研究所研究課題70「日本

女子大学の草創期における欧米思想の受容——女性の自立と平和の結びつきをめぐって」開催の白井堯子氏による講演会「日本女子大学創立期における日英の交流——成瀬仁蔵・ヒューズ・フィリップスをめぐって——」（於 日本女子大学）にて、司会を務める。

- 町沙恵子助教は、12月8日、「日本語の三者会話に見られる編み込み構造（ブレイド・ストラクチャー）と共創性——他者の発話の繰り返し・パラフレーズの分析から——」を、共創学会第2回年次大会（於 東洋英和女学院大学）にて口頭発表、大会予稿集に執筆。
- 川端康雄教授は、12月8日、日本ワイルド協会第43回大会（於 青山学院大学青山キャンパス）にて、「アイルランドにおけるアーツ・アンド・クラフツ運動の思想的先駆者としてのオスカー・ワイルド」（発表者：高橋優季）の司会を務める。
- 川端康雄教授は、12月15日、「「芸術とその作り手たち」——全国芸術・産業応用芸術振興協会第一回大会（1888年）でのモリスの報告をめぐって」を、意匠学会デザイン史分科会第3回ウィリアム・モリス研究会（於 日本女子大学目白キャンパス）にて口頭発表。
- ピーター・ロビンソン准教授は、12月15日および16日、“The English-language Poetry of Oshima Shôtarô: An introduction by W. B. Yeats” を 2018 International Yeats Society Symposium（於 京都大学）にて口頭発表。
- 川端康雄教授は、12月25日から2019年1月5日まで、科研基盤研究（A）「「産業文学」の再定義とその国際共同研究」に係る調査のため、連合王国ロンドンに海外出張。
- 大場昌子教授は、1月29日、日本女子大学学長に就任。
- 松森晶子教授は、2月、“Prosodic Unit, Recursive Structure and Nature of Accent in Miyako Ryukyuan” を *The Linguistic Review* Vol. 29, No. 1 (Special Issue: Prosody and Prosodic Interfaces in Japanese and Korean). De Gruyter Mouton に執筆。
- 川端康雄教授は、2月1日、世田谷美術館の特別展「ある編集者のユートピア 小野二郎」（会期 2019年4/27～6/23）準備のための学術協力者に就任。
- 高梨博子准教授は、3月、「日米アジアの観光都市におけるインバウンド旅行者との対話的交流による地域アイデンティティの形成に関する研究」を『交通学研究』第62号に執筆。
- 早野薫准教授は、3月、「レヴィンソンが牽引するインタラクション研究」を『語用論研究』第19号に執筆。
- 馬場聡准教授は、3月「アメリカ・シンデレラの進化論——世紀転換期の海賊版絵本を中心に」を『英米文学研究』第54号に執筆。
- 馬場聡准教授は、3月「特撮怪獣の咆哮——日系紙『ギドラ』における政治と創作の弁証法」を『松本昇先生退職記念論文集』（金星堂）に執筆。
- ピーター・ロビンソン准教授は、3月、“Narrative Instability and the Role of Captions in Hugh Lofting’s Doctor Dolittle Newspaper Serial Illustrations” を『英

- 米文学研究』第54号に執筆。
- 藤永康政准教授は、3月、「刑罰国家とブラック・ライヴズ・マター運動」を『世界』第908号に執筆。
 - 花角聡美助教は、3月、“John Ruskin’s Anti-Modernisation: Expressed through the Clouds”を『英米文学研究』第54号に執筆。
 - 町沙恵子助教は、3月、“Managing relationships through repetition: How repetition creates ever-shifting relationships in Japanese conversation”を *Pragmatics* (Quarterly Publication of the International Pragmatics Association) vol. 29 (1) に執筆。
 - 藤井洋子教授は、3月4日、「内在的視点と省略——省略再考」をシンポジウム『日本語と韓国語の省略』(於 東京大学駒場キャンパス)にて招待発表。
 - 川端康雄教授は3月5日、日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画「オーウェル『一九八四年』とディストピアのリアル——刊行70周年記念シンポジウム」(共催・レイモンド・ウィリアムズ研究会)にて司会およびディスカッサントを務める。
 - 高梨博子准教授は、3月7日、「対話から見た「観光地のアイデンティティ」」を第59回運輸政策セミナー(於 運輸総合研究所)にて口頭発表。
 - 川端康雄教授は、3月16日、「小野二郎のウィリアム・モリス研究」(於 早稲田大学戸山キャンパス)を日本比較文学会東京支部2019年3月例会にて招待講演。
 - 川端康雄教授は、3月21日から3月25日まで、科研基盤研究(A)「「産業文学」の再定義とその国際共同研究」に係る調査のため、連合王国ロンドンに海外出張。
 - ピーター・ロビンソン准教授は、3月、科学研究費助成事業の一環として book advertising に関するウェブサイト BKAS.org を編集、運営し、デジタルベース BKAS Lib を開設。
 - 増田和香子助教は、3月、退職。
 - 町沙恵子助教は、3月、退職。
 - 小林かおり助手は、3月、退職。